

心の宝

令和3年新年号

福をえる
良い家庭、

花言葉

ナンテン（和名・南天）

宗華法本頭



年回法要について

年回法要は、一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十三回忌・二十七回忌・三十三回忌・五十回忌・百回忌の順でおつとめします。

地方によっては、二十三回忌・二十七回忌の代わりに二十五回忌をつとめる所もあり、また、三十七回忌・四十三回忌・四十七回忌をつとめる地域もありますので、詳しくは菩提寺にお尋ねください。

新年を迎えるにあたり仏壇を清掃して、位牌等で回忌を確認し、回忌が分かったら早目に菩提寺に連絡して、年回法要をおつとめしましょう。

また、年回にかかわらず、毎年の祥月命日（亡くなった当日）には、大切に供養いたしましょう。



【令和三年 年回表】

回忌	年
一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年、令和元年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十五回忌	平成九年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	平成元年
三十七回忌	昭和六十年
四十三回忌	昭和五十四年
四十七回忌	昭和五十年
五十回忌	昭和四十七年
百回忌	大正十一年

信徒の心得

- 一、私たちの宗旨は顕本法華宗です
- 一、顕本法華宗の総本山は京都の妙満寺です
- 一、私たちは日蓮大聖人が定められた大曼荼羅を御本尊として篤く仏・法・僧の三宝さまに帰依します
- 一、私たちは妙法蓮華経と日蓮大聖人の御書を教えの拠り所とします
- 一、私たちはお釈迦さまを教主と仰ぎ日蓮大聖人を宗祖日什大正師を開祖として経巻相承を宗是とします
- 一、私たちはお釈迦さまの大慈大悲を信じて努めて菩薩の行を实践します

目次

年頭法話……………	2
新年のごあいさつ……………	4
令和3年宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年に向けて 宗祖御降誕八〇〇年を共に 〜僧侶・檀信徒の粹を超えて〜	6
中村日玄猊下百寿 記念インタビュー……………	10
聖訓カレンダー……………	13
住職からのまごころ一品……………	16
日蓮聖人門下連合会 結成60周年記念法要……………	18
和顔愛語……………	19
宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年 慶讃大法要のご案内……………	20
宗門だより……………	22
本山だより……………	23
年賀広告……………	24

年頭法話

顕本法華宗管長 大川日仰
総本山妙満寺貫首



謹賀新年

宗祖日蓮大聖人ご妙判『四条金吾女房御書』に曰く
「明かなる事日月にすぎんや。淨き事蓮華にまさるべきや。
法華経は日月と蓮華となり。故に妙法蓮華経と名く。日
蓮又日月と蓮華との如くなり」

令和3年の新年を迎え、全国各寺院のお上人方をはじめ、檀信徒の皆さま、明
けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、一日も早く疫病が終息することを願っております。

さて本年は、宗祖日蓮大聖人が鎌倉時代の貞応元年（一二二二）2月16日に、
東海安房国（千葉県）小湊片海にて、本仏釈尊の使者・上行菩薩の再誕、末法
濁世の人々を救うために降誕あそばされて八百年目の聖年を迎えます。私達が
この大慶事の機縁にめぐり合えたことは、正に千載一遇の幸せと申さねばなり
ません。

ご承知の通り諸経の王である法華経は、一部八卷二十八品あり、前半の十四品
を「迹門」といい、後半の十四品を「本門」といい、この「本門」の中の「如来
寿量品第十六」が一番大切な教えなのです。そしてこの法華経を、大聖人がつき
ふるい和合されたのが「南無妙法蓮華経」のお題目です。「南無妙法蓮華経」を
お唱えするということは、法華経の教えに帰依（南無）し、顕本法華宗の正しい
教えを守り、命をかけて弘めてまいりますということなのです。

大聖人はお題目をお唱えする功德について
「釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す。我等この五字を受持すれ
ば、自然に彼の因果の功德を譲り与えたもうなり」（観心本尊抄）
とご教示されておられます。

輝かしい新年を迎え、私たちは御降誕八百年の意義を心の「信仰の小箱」にし
っかりと納めて、信仰生活（菩薩行）に励むことによつて、本仏釈尊より大慈大
悲の大功德をいただき、人として豊かな心を育むことができますのです。

南無妙法蓮華経 合掌

新年のごあいさつ

顕本法華宗 宗務総長 河野時巧こうの じぎょう



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

新年を迎え気持ちを新たにする一方で、新型コロナウイルスが檀信徒の皆さまの心や生活に与える影響は計り知れず、心からお見舞い申し上げます。

本年は、宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年の聖年をお迎えいたします。

コロナ禍の厳しい状況の中、檀信徒の皆様と共に「照らされて導かれて」のローガンのもと、心を一にして大聖人御降誕八〇〇年のお祈りができることに感謝申し上げます。

また、全国のご寺院方・檀信徒の皆様より、本慶讃事業に寄せて多大なご寄付ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ご存じのように大聖人がご降誕なされたのは、「安房国東条片海の石中の賤民が子なり」(善無畏三蔵抄)として、貞応元年(一二二二年)2月16日であります。

大聖人がご降誕なされた八百年前の鎌倉時代は、仏法が減びようとする「末法

の世」で、正しい教えを護らなければその国に三つの不吉なこと、飢餓・戦乱・疫病が起こると、大聖人は『立正安国論』の中で經典を引用して述べられています。

正に大聖人は、混沌とした時代に法華經の伝道者(上行菩薩)として、法華經を読み実践されて、私たちが救済するために降誕あそばされた方であり、大聖人の御降誕の意義は深く実に偉大であります。

さて、総本山妙満寺に於ける宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃大法要はコロナ禍の中、参拝人数を制限するなど規模を縮小せざるを得ませんが、皆様のお心だけは結集致したく、ご理解をお願い申し上げます。

檀信徒の皆様、コロナ禍の災難を乗り越えて、それぞれの道場で大聖人御降誕八〇〇年に誠の祈りを捧げると共に、我が顕本法華宗の「經卷相承・直受法水」の宗是を再確認し、正しい教えを心に、正しい道を歩めるようにお題目をお唱えしましょう。



南無妙法蓮華經

く令和3年 宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年に向けてく

宗祖御降誕八〇〇年を共に

く僧侶・檀信徒の枠を超えてく

茨城県神栖市 長照寺住職
特命布教師

吉本栄昶 えいしょう



本年はいよいよ、宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年をお迎え致します。

『法華経』には、お釈迦様の「魅力」があります。それを命がけで弘められた大聖人にも、布教者として、人としての「魅力」を感じることができそうです。

一昔前は、大聖人といえば「厳格・孤高」というようなイメージととらえられていたことがありますが、「繊細」で「温かい」気づかいの方で

もありました。檀信徒への丁寧なお手紙の数々が、それを物語っております。

『法華経』も大聖人も、そこに人を惹きつける「魅力」があるからこそ、今もなお脈々と教えが続き、多くの方々を救っているのです。

私は「魅力」のある人間になるためにどのようなすればいいか、常に試行錯誤しております。どれだけ良い肩書があっても、人としての魅力がなければ、ただの見せかけになってしまいます。人は生きる中で苦悩し、時に笑い、時に叱られ、多くのことを経験すればするほど、にじみ出る「魅力」というものが表れます。

私は布教に生かすため、落語家としても活動していますので、自坊は三遊亭圓窓さんゆうてい えんそう師匠の落語の稽古場にもなっております。そのため、月数回の稽古では、師匠によく叱られております。また、地域の見守り活動や観光の仕事では、色々な角度からの意見を地域に生かせるよう、集約する作業で頭を抱える毎日ですが、私にとって違う世界を見ることは、それが人に話すネタとして蓄えられます。特に、辛いことや叱られたことは、大きなネタになるのです。「辛いこと 暗く話せば愚痴となり 明るく話

せば「ネタとなる」。これが私の「魅力」になればいいのですが。

私のこの経験を企業の新人育成研修や、リーダー講習会では、良く話しております。辛いことも他者に話し笑ってもらえると、その辛さが無駄なものではなくなります。そうすると、色々なことに取り組んでみようと前向きになります。辛いことは逆に大きな華を咲かすための肥料となるのです。

『心の宝』を読んでおられる方も、コロナで辛いことが続いていることと思いますが、絶対にこの経験は無駄ではありません。今の経験を未来に活用できるように一生懸命に過ごしましょう。

お寺もコロナの影響は例外ではありませんが、落ち込んではいられません。「冬の後には春」になるのを願って、お寺は常に元気でおります。困った方、悩んでいる方に、元気を与えなければなりません。そのためには、僧侶が元気でなければいけません。そして、お寺に檀信徒がたくさん来ていただかねばなりません。

お釈迦様の周りには常に多くの方々が集まりました。同じく、大聖人の周囲にも多くの人々が集まりました。その大聖人の魅力を今に伝えるべく、顕本法華宗では令和3年に正当法要を営みます。

皆様には多くの方々にお声をかけていただき、お越しいただきたいと願っております。というのも、「魅力」というのは派生していくものなのです。太鼓を叩くと、そばにいる人にその音が届くように、魅力のある方の近くにいると、その魅力が備わってくるのです。

今を未来につなぐためにも、『法華経』や大聖人の魅力や人徳を肌で感じていただけるよう、全国の僧員あげてお待ち申し上げます。

総本山妙満寺とかけまして、はるつげどり春告鳥ととく

そのころは、

寒い(作務衣)来て、ホーホケキヨウ(法華経)と唱うれば、
雪(逝き)が転じて縁(援)となる。

(解説) 顕本法華宗の僧侶は常に皆様に心のぬくもりを届けられるように、寒さの中『法華経』をお唱えしております。『法華経』の縁を介して、逝きし者が温かく、常に身近で援けたいと願っていることをよみました。

中村日玄猯下百寿記念インタビュー

平成19年から2期6年に亘り、元頭本法華宗管長で総本山妙満寺第305世
貫首の中村日玄猯下が、御年100歳の百寿をお迎えになりました。

現在も大変お元気でご法務もなされている中村猯下に、百寿の記念インタ
ビューをさせていただきました。



編集局 中村日玄猯下、百寿を迎えられまして誠に
めでとうございます。百寿を迎えられ、今のお気持ち
をお聞かせください。

中村猯下 俗な言葉で「40、50はハナタレ小僧 60、
70は働き盛り 80、90でお迎え来たら百まで来るなど
追い返せ」と言いますが、まさか自分が百歳まで生き
るとは思いもよらぬこと。大勢の人達に支えられ助け
られ、一人では生きていけないことに気付いて、目に
見えないものに心安らかに感謝し、両親から授かった
体を大切に思い、報恩の心で毎日を過ごしております。

百歳を迎えたという事で耳は難聴、眼はしよ

くれた日々を過ごしたことを覚えております。

地元の小学校卒業後、千葉県西福寺住職 山岡日紹
上人のもと給仕奉公し、仏教学はもとより立ち居振る
舞いから生きるもの大切さ、食事作りに至るまで、
あらゆるものを学びました。特に食事づくりは奥様か
ら教わり、手抜きはしないで気持ちを入れてつくる、
それが何より大切だということを知りました。また夕
食後はお経の勉強の毎日でした。同じ文言を何遍も唱
え、間違えると「パチンツ」と頭をたたかれ、一晩でたん
こぶ3つは普通、辛い思い出です。全てが未知の世界で
したので、夕方になると家が恋しくてよく泣きました。
その後私は、昭和16年1月兵役に服し、東部12部隊
近衛野砲連隊に入隊し終戦を迎えました。

編集局 猯下が思い出される、懐かしいお上人のこ
とや、思い出に残る法要があればお聞かせください。

中村猯下 総本山妙満寺第294世 吉永日洋猯下(昭
和50年ご遷化)のお姿が目に浮かびます。吉永猯下は、

しよぼ、手足は思うように動かない。振り返ってみ
ると良いことばかりではなく、辛い日もあり、家内と
もお互いに助け合って生きてきました。徳川家康も「人
の一生は重荷を負って遠き道をゆくが如し 急ぐべから
ず云々」と言っていますが、日蓮大聖人のお弘めにな
られたお題目を日々お唱えし、信仰生活の喜びを感じ
ております。

編集局 猯下は大正9年生まれとのことですが、幼
少期〜青年期にかけては、どのような時代でしたか？

中村猯下 幼少期(7歳)に母と死別、家庭の温か
みが薄く父親(通寛)の手で育ちました。少々ひね
みがあるが、同じ態度で接しておられました。立ち
居振る舞いや所作、衣帯の召し方、読経の声など総てが
素晴らしく、法要の際には威厳と緊張感を感じる雰囲気
が漂っておりました。

また、思い出に残る法要は、私が宗務総長の時の、
平成14年4月総本山で3日間に亘り厳修された「大
聖人立教開宗750年慶讃大法要」です。総本山が
岩倉遷堂以来最大の諸堂大改修のもと、全国から約
5千人の参詣者で厳修されました。そして750年
の記念行事で関東(千葉県会場) 関西(岡山県会場)
それぞれの会場で行われた「報恩のつどい」です。
千葉県会場では雅楽での法要、岡山会場では僧俗一体
での団扇太鼓による唱題行で、他では体験すること
のできない重厚で緊張感があるものでした。令和3
年の大聖人御降誕800年の行事も、コロナ禍では
ありますがこれに勝る様な行事であるようお願いして
います。

編集局

最後に、これから宗門を担う若い僧侶と

檀信徒・読者にお言葉をお願い致します。

中村猥下

若い僧侶には温故知新、昔から行われてきた慣習を軽視せず、仏法を伝えて行くことを望みます。「古きを温ね、新しきを知る」、今は効率を求めるが故に古い慣習が省略されたりして、意味や理由が不明瞭になっていますが、過去（先師、先達の教え）を正しく学び、これからの未来を良くする「糧」として大いに活躍してもらいたい。

開祖日什大正師の「経巻相承 直受法水」のご精神を忘れてはなりません。

また、檀信徒の皆様には伝えることは、戦後日本の復興は目覚ましく、（私の生まれた）大正時代と違って経済的には豊かになったように感ずることが出来ますが、「精神的」には果たして幸せかどうか疑問を感じます。

目には決して見ませんが、日々お互いにお題目、南無妙法蓮華経の「信仰の力」を信じ、皆精進に励み、この艱難辛苦の世の中を共に生き抜きましょう。

南無妙法蓮華経

■ 中村猥下には大変ご多忙の中、編集局のインタビューにこころよく答えていただきました。最後に編集局員の心に残る中村猥下の思い出を追記します。

・春季大法要で大導師をお勤めになられた際の、勧請文・回向文の朗々たるお声に感激しました。

・平成17年にインドの仏蹟巡礼をご一緒させていただき、ハードスケジュールのため若い方が次々と体調を崩す中、一番元気なお姿に大変驚きました。

・本山にて修行生時代、夕食後の猥下（当時本山総務）のお話が楽しみでした。山本五十六氏の格言や地元千葉県のお話し等、猥下とのよき思い出です。

略歴

大正9年11月1日、中村通寛上人の長男として、千葉県山武郡（現在の山武市）松尾町広根の平野山円寿寺に生まれる。平成6年4月、本山総務。同12年2月、宗務総長。同14年4月、「立教開宗750年慶讃事業」奉行委員会委員長等歴任。平成19年より2期6年に亘り、顕本法華宗管長・総本山妙満寺貫首を歴任。

聖訓カレンダー

解説

大阪府 香里顕本教会 足立幸謙



今年御つづがなき事をこそ
法華経に申し上げまいらせ候え

兵衛志殿御返事

弘安元年（二二七八）大聖人五十七歳

この御遺文の宛名の「兵衛志」とは官位名で、日蓮大聖人が鎌倉で布教されていた時に熱心な信者となられた鎌倉武士「池上兄弟」の弟、池上宗長のことです。宗長は兄の宗仲とともに大聖人の辻説法を聞き、大聖人の教えの正しさに感激し法華経に帰依されたといわれています。

法華信仰を喜ばず、法華信仰を捨てよと迫り、信心が強盛である兄の宗仲を勘当します。弟の宗長は父との関係、信仰の取捨に悩みましたが、大聖人の懇切な教導により信心をさらに強め兄弟ともに父を説得し、紆余曲折の末、父はついに兄の勘当をとき、熱心な法華信者となりました。

れ、その病状を伝聞した宗長が味噌一桶を送ったことに対する礼状がこの御遺文です。投薬により少し回復されたことを報告され、池上家が今年も家内一同法華信仰を継続されることと、家庭の平安を祈念されたお言葉と拝察されます。本年も皆様の法華信仰の受持とご家庭の平安をご祈念いたします。

観の熱心な信者であり、兄弟の

大聖人は晩年ご体調を崩さ

ます。

二月

昨日は人の上、
今日は我身の上なり

寂日房御書

弘安二年（二二七九）大聖人五十八歳

この御遺文は日蓮大聖人の弟子の寂日房の關係者に宛てられた返書だと拝察されます。

大聖人が法難に遭われているのは法華經に書かれていることであり、法華經の行者の証明でもあると説明され、その弟子檀那となることは大変な宿縁であるから同じように法華經を弘めて下さいと述べられます。

「今生の恥を気にする人は多い

が、後生の恥まで考える人は少ない。死後、三途の川で*奪衣婆や*懸衣翁に衣を剥がれる方が恥である。法華經の薬王品に

「裸者の衣を得たるがごとし」とあり、御本尊は冥途の恥を隠す衣で、法華經や釈尊も守って下さいます。また、あなたは私の身を助けて今生の恥を隠して下さいましたから後生は私が恥を隠します。昨日は人の上、

今日は我身の上」と思い信心を怠らずお題目をお唱え下さい。そしてこの事は寂日房にも詳しく語って下さい」と述べられます。願本法華の信徒であることは大変な宿縁です。困難多きご時世ですが、法華經にはそれを乗り越える力があり、後生の安心も約束されています。久遠実成の釈尊を信じお題目を唱え法華經を弘めていきましょう。

*奪衣婆：三途の川のほとりにいる老婆で生前に悪業がある者の衣服を剥ぎ取る

*懸衣翁：奪衣婆の隣にいる翁で奪衣婆が剥ぎ取った衣服を樹にかけ罪の重さをはかる

三月

さくらはおもしろき物
木の中よりさきいず

重須殿女房御返事

弘安四年（二二八二）大聖人六十歳

この御遺文は富士重須の地頭、石川新兵衛の夫人に対する御文です。まず正月の供養の品に対するお礼を述べられ、そして地獄や仏は存在するののかという問いに答えられます。

「地獄というのは經典で色々書かれていますがよくよく調べてみると心の中にもあり、例えば父を侮り母を疎かにすることは地獄の心です。仏というのも心の

中にあります。しかし我々凡夫には仏性というのは見えません。蓮華は泥沼に咲き梅檀は大地から生えます。桜は不格好な木から綺麗な花を咲かせます（今月の聖訓）。

あなたは正月の初めより法華經を修行しご供養もされました。そのお心は尊く桜が花を咲かせ、蓮華がつぼみをつけ、雪山で梅檀が育ち、月が初めて山より出

るようなものです。また法華經を信じる人は幸いを万里の外から集めるようなもので、香りのよい梅檀に一層香ばしさを添えたような功德があるでしょう」と述べられます。

私たち凡夫は法華經を信じ積み重ねることによって仏性の花が開いていくものです。法華經・久遠実成の釈尊を信じお題目を唱え信仰を継続していきましょう。

1 ジャガイモをカットし電子レンジで約10分。ホクホクになったら皮をむいてジップロック(袋)に入れ、塩コショウ適量を手で潰しながらなじませる。そこに生クリーム(ジャガイモの量に合わせる)を少しずつ入れ、手で押し潰しペースト状にする。



2 お餅をサイコロ状にカットし、バターを溶かしたフライパンでかるく焼き目を付ける。



3 フライパンにオリーブオイル、ニンニクを入れ、香りが付いたらニンニクを取り出し、しめじ、玉ねぎ、ほうれん草(下茹で)をしんなり炒め、ホワイトソースを入れる。具となじませたら火を止める。



4 器の底に明太マヨを敷き、2のお餅をのせ、3のソースを入れ、その上に1のジャガイモペーストをしぼり平らにする。溶けるチーズとパン粉を乗せオーブントースターで180℃～200℃で約10分焼く。表面に満遍なく焼き目が付いたら、みじん切りパセリをのせる。



お正月のお餅で
もちりグラタン

材料(2人前)
 ホワイトソース缶 290g 1缶
 生クリーム 100cc～150cc
 オリーブオイル… 大さじ2
 ジャガイモ(中) 4コ
 ほうれん草(下茹でする) 1/2束
 ニンニク 1/2片
 玉ねぎ 1/2コ
 明太子マヨネーズ 適量(既製品でもよい)

明太子一本薄皮を取り、明太子の半量のマヨネーズと合わせる

しめじ 30g
 バター 8g
 お餅 2コ
 塩コショウ 適量
 溶けるチーズ 適量
 パン粉 適量
 パセリ(みじん切り) 適量
 *適量は好みの量になります。

住職から
まごころ
一品



元料理人のご住職に、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。



富田俊光師
 1974年3月22日生、
 1992年新宿調理師専門学校入学、1993年ホテルグリーンタワー幕張入社、1998年総本山妙満寺奉仕生、2011年～現在千葉県東金市滝清滝寺住職



お餅を焼かずに薄くスライスして入れるとより一層「もちり」になります。



毎日の食事の時には、必ず合掌して、一つひとつの食材の命に感謝し、そして携わった人々に感謝し、食前の食法をお唱えしてください。

(食前の食法)
 「天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。みなこれ本仏の慈悲なり。南無妙法蓮華経。いただきます。」
 (天の三光・太陽、月、星。地の五穀・米、麦、粟、豆、黍などの穀物。)

去る10月22日、総本山妙満寺において、「日蓮聖人門下連合会 結成60周年記念法要」並びに京都理事会が開催されました。

「日蓮聖人門下連合会」とは、大聖人門下の伝統教団が昭和35年に結成された組織で、現在は顕本法華宗、日蓮宗、法華宗(本門流)、法華宗(陣門流)、法華宗(真門流)、本門法華宗、日蓮本宗、本門佛立宗、国柱会、日本山妙法寺、京都日蓮聖人門下連合会の11教団が加盟しています。

本年は結成60周年にあたり、各宗貫首猊下はじめ代表者参列の中、記念法要大導師を大川日仰猊下、副導師には京門連理事長の吉永義康本山総務がお勤めになりました。

また法要後には大川猊下より「妙満寺の沿革」についての講演があり、「コロナ禍での厳しい状況下ではありますが、日蓮大聖人のお題目の教えを、皆で協力して世界に広めていきましょう」と各宗代表者に対し力強く述べられました。



わげんあいご 和顔愛語

“笑顔”や“感動した言葉” 募集します!!

皆さまからの“笑顔”の写真や似顔絵、心温まる言葉・感動した言葉を募集します。官製はがきまたは封筒に、ご自身・家族・兄弟・ペットなどの「笑った顔」の似顔絵(写真でもOK)また、感動した言葉をお送りください。絵は大人・子供どなたが描かれても結構です。

このコーナーにて掲載の方々には、粗品をプレゼントいたします。



上:「お父さんへ
いつもありがとう」
下:「はい、チーズ!」
京都府 城陽市
浅野青葉さん



京都市
野村光子さん
「笑顔一筆」



岡山市
岡部凧生(なみ)さん(高1)
「高校の美術科で日々勉学
に励んでいます。」



応募要項

官製はがきまたは封筒に住所・氏名・年齢・菩提寺名(匿名で掲載希望の方は、その旨お書きください)を記入の上、
〒700-0818

岡山市北区蕃山町 3-5
本行寺内『心の宝』編集局
までご応募ください。

※写真のみ掲載後お返し致します。

第2回〆切り1月末日

■令和2年秋号 まちがい絵さがし正解

②、③、⑦、⑧、⑨

■当選者

吉田リエ子様(青森県八戸市)、戸村文枝様(千葉県山武郡)、石井恵子様(千葉県東金市)、庭和田みち代様(兵庫県姫路市)、三村幸恵様(岡山県和気郡)

令和3年 春季報恩大法要のご案内

令和3年5月22日(土)・23日(日)

宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃大法要

令和3年は、宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年の聖年に当たり(貞応元年「1222」2月16日ご降誕)、京都・総本山妙満寺において5月22日・23日の2日間にわたって「宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃大法要」(春季報恩大法要併催、計四座)を奉行いたします。風薫る好季節、皆様方のご参詣を関係者一同、心よりお待ちしております。

※このたびの行事は、新型コロナウイルス感染症防止のため、各座の参拝人数を100名に制限し、団体・個人を問わず事前申し込み制とさせていただきます。また、慶讃大法要記念コンサートにもWebでのリアルタイム動画配信も予定しています。

※行事詳細につきましては本山ホームページをご覧ください。本山もしくは菩提寺まで直接お問い合わせください。



令和3年	5月22日(土)
10時30分	法 話
11時00分	慶讃大法要 第一座 (宗祖御真蹟御本尊開眼法要)
12時00分	休 憩
13時30分	法 話
14時00分	慶讃大法要 第二座 (歴代・本宗僧員年回法要)

令和3年	5月23日(日)
10時30分	法 話
11時00分	慶讃大法要 第三座 (祠堂・納骨法要)
12時00分	休 憩
13時30分	法 話
14時00分	慶讃大法要 第四座 (大施餓鬼法要)

申込受付開始 令和3年3月1日(月)より

主催：顕本法華宗宗務院／総本山妙満寺／宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃事業奉行委員会



令和3年6月6日(日) 宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年 記念コンサート『幻想組曲妙満寺』

さらに6月6日、本山を会場に京都市交響楽団メンバーの、アンサンブル「弦伍楼」による記念コンサートを開催します。

宗祖御降誕八〇〇年を記念して制作された唱歌「日蓮大聖人のうた」(土持悠孝作詞・作曲)と「ああ、日蓮大聖人」(高吉日山作詞・土持悠孝作曲)、さらに京都市交響楽団コントラバス奏者のジュビレニス・イデアラ氏(特別に書き下ろした新曲2曲(未発表曲)を加え、「幻想組曲妙満寺」と命名しました。日蓮大聖人の偉大なるご遺徳を讃える弦楽五重奏と中山航介氏のピアノ&打楽器による表現豊かな演奏をお楽しみいただけます。

日時 令和3年6月6日(日) 午後(時間未定)
会場 総本山妙満寺・本堂
定員 100名(定員になり次第、受付終了)
入場料 大人=3,000円、小・中学生=1,000円
(お供え) 子供・未就学児=無料



アンサンブル弦伍楼(げんごろう)
京都市交響楽団のメンバーを中心に結成した弦楽アンサンブル。グループ名は京都発のメジャーロックバンド「くるり」の岸田繁氏の命名であり、同氏には楽曲提供も受けている。2019年に旗揚げ公演を行い、様々な音楽要素を取り入れた活動に注目が集まっている。Youtubeチャンネル「弦伍楼」

申込受付開始 令和3年3月1日(月)より

令和3年は宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年です。

宗門だより

第八教区

寛文法難先師顕彰参拝

9月28日、第八教区主催による寛文法難先師顕彰参拝が行われました。コロナ禍ということで、例年の団体参拝は控え、現地(宮崎県日南市北郷地区)在住で、日頃より顕彰碑等の管理をしていただいている清氏(せい)と関係者代表が、寛文5年(1666)に配流となられた精進院



日英上人・福智院日応上人のご遺徳を偲び、先師顕彰碑前において報恩法要を厳修致しました。

第六教区

常楽院日経上人報恩の会



10月26日、第六教区音川教会(富山市婦中町外輪野)にて常楽院日経上人御命日忌報恩法要を厳修

いたしました。

本年は新型コロナウイルスの影響もあり、規模を縮小しての法要となりましたが、各地より参列の会員諸師、並びに音川教会を熱心に護持いただいている若瀬氏と共に日経上人の終焉の地でお題目を唱え、不惜身命の精神で法華経弘通に邁進された日経上人のご遺徳を偲びました。

宗務院

全国布教師研修会

10月22日、全国布教師研修会並びに総会が、Zoomを使ったリモート会議で開催されました。研修会では、特命布教師の吉本乗明師(広島県安芸

高田市 蓮華寺住職)による「いま・人々の不安を取り除くために」についての講義があり、手書きの絵手紙等を使った布教方法を紹介していただき、参加者から質問や活発な意見交換がありました。

篤志御礼

秋葉 敬真上人
因幡 信篤上人
高吉 佑明上人
橘 無我上人
土持 榮孝上人
川崎 英宗上人
児玉 俊常上人
児玉 常信上人
児玉 常優上人
世良 隆善上人
藤本 智成上人
順不同

本山だより

第739回 宗祖日蓮大聖人報恩 御会式奉行

10月12日・13日の2日間にわたり、第739回に当たる宗祖日蓮大聖人報恩御会式が大川日仰報下大導師のもと、厳修されました。



今年新型コロナウイルスの影響により、参詣者もまばらでしたが、近末寺院はじめ関西のお上人方にご出仕いただき、厳肅に報恩法要をお勤めました。

12日の速夜法要では、幽玄な雰囲気の中で大聖人のご遺徳をお偲びし、翌13日は、出仕僧員と参詣された檀信徒の方々とともに正當法要が奉修されました。

その後、特命布教師・藤本智成師(岡山県 久米郡美咲町 本経寺住職)の「御会式によせて」と題する法話があり、参詣者は真剣に耳を傾けていました。

瀧本幹也氏個展

「CHAOS 2020」開催

京都を舞台とする第8回目「京都国際写真祭2020」のテーマは「VISION」。5月開催の予定がコロナ禍で延期となり、9月19日〜10月18日に時期をずらしての開催となりました。

メイン会場の一つとなった妙満寺では、Associated Programs「CHAOS」



2020」として、写真家・瀧本幹也氏の展覧会を開催しました。

瀧本氏は、初めてとなるお寺での個展に向けて、昨年から綿密な構想を練って展示に臨み、写真作品の他にも、映像、インスタレーションを駆使、さらに妙満寺「雪の庭」からインスタレーションを受けた作品群を、大書院の空間を最大限に活かして展示され好評を博しました。

瀧本氏の意欲的な個展は、今年の国際写真祭でもひととき大きな話題を呼び、盛況のうちに幕を閉じました。

▶1/1(金・祝)
新歳国禱会

▶2/28(日)
御開山会
釈尊涅槃会
宗祖降誕会

▶3/20(土・祝)
春季彼岸会

▶4/3(土)
花まつり

▶5/22(土)・23(日)
宗祖日蓮大聖人御降誕
八〇〇年 慶讃大法要

▶6/6(日)
宗祖日蓮大聖人御降誕
八〇〇年 記念コンサート

▶8/7(土)
盂蘭盆施餓鬼会

▶9/23(木・祝)
秋季彼岸会・敬老会

▶10/12(火)・13(水)
宗祖日蓮大聖人御会式

▶12/5(日)
釈尊成道会・大根だき

▶12/31(金)
除夜の鐘

除夜の鐘・新歳国禱会

令和2年

12月31日(木)

23:30 ~ 除夜の鐘

令和3年

1月1日(金・祝)

0:00 ~ 新歳国禱会

大晦日に鐘を108回撞くことで私たちの煩惱を取り除き、新しい年の招福を願う行事・除夜の鐘。本山では、今年も仏舎利大塔および境内全域をライトアップし、幻想的な雰囲気の中檀信徒をはじめ参詣された方全員に鐘を撞いていただきます。

なお、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、お茶席と甘酒の接待は中止しますので、あらかじめご了承ください。



日什大正師留魂の根本道場

顕本法華宗 総本山妙満寺

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町91

TEL 075-791-7171 FAX 075-791-7267

郵便振替 01060-8-5040 (口座名「妙満寺」)

HP <http://myomanji.jp/>



季刊『心の宝』第124号(令和3年新年号)

発行所 顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町91 総本山妙満寺内

TEL 075(791)7171 FAX 075(791)7267 HP <http://www.kenpon.jp/>

発行日 令和2年11月20日

菩提寺